

2008 年度 年次報告書

Annual Report for 2008



目次

◆代表挨拶	p2
◆モンゴル・ゆいまーるの概要	p3
◆2008 年度 活動ハイライト	p4
◆奨学金事業	p5～p6
◆コンサート事業	p7～p8
◆Design Products事業	p9
◆広報事業	p10
◆ガバナンス	p11
◆会計報告	p12
◆08 年度ゆいまーるスタッフ	p12

◆代表挨拶

活動が始まって早1年が経ちました。08年度を振り返ると激動の年であったと感じています。

(08年)3月に参加したNGO・NPOのためのコンペティション「NPOイノベーションングラント」での優勝を機に、ゆいまーるの名は少しずつ認知されはじめ、早稲田大学を初めとして、方々から講演の依頼も受けるようになりました。

5月には、株式会社アイデアインターナショナル様のご協力により、表参道ヒルズ IdeaFRAMES 内ギャラリーでゆいまーるの写真展を行いました。実はこの時期、スタッフの引退や転勤が重なり、果たして活動を継続していけるのかと不安も抱えることもありましたが、設立期から共に活動してきたスタッフの存在に支えられ、ゆいまーるは前進し続けることができました。10日間に約200人もの方が訪れてくださり、初めての写真展は無事成功を収めました。そして、このイベントを通じて11人もの方がボランティアとして参加し、そのうち5名が後にゆいまーるスタッフとして活躍するようになったことも、とても印象深いことです。

そして8月、モンゴル・ダルハン市の「太陽の子ども達」にて、2名の孤児院卒業生に奨学金を授与することができました。現在は2名とも、モンゴル国内の大学に通っています。彼らが、いつか孤児院のため、モンゴルのため、ひいては世界のために活躍する人間に育ってくれることを信じてやみません。

11月には、孤児院の子ども達による来日コンサートを行うまでになりました。来日コンサートはモンゴルの子ども達の努力の成果を、日頃からお世話になっている支援者の方々に披露する場となりましたが、子ども達にとってもまた、自分の特技を披露したことで自信を身につける良い機会となったことでしょう。皆様のお力添えが、子ども達の未来を作っていくことを実感したコンサートでした。

今後もゆいまーるは、子ども達が自立し、自分の力で未来をつかめるように、支援の拡充に努めて参ります。まだまだ未熟な私たちですが、どうぞ今後とも暖かいご支援・ご協力をお願いいたします。

NGO ゆいまーるハミングバース代表 照屋 朋子



◆モンゴル・ゆいまーるの概要

マンホールチルドレン

真冬には気温が-30℃にまで下がる極寒の地、モンゴル。行き場を失った子ども達が、マンホールの中で暮らしています。マンホールは温水供給パイプが通っており暖かいからです。しかし、汚水が漏れている所、虫が湧いている所があるなどその環境は劣悪で、子ども達は常に感染症や皮膚病の脅威にさらされています。また、老朽化した温水管が破裂して傍にいた子どもが犠牲になるなど痛ましい事件も起きました。

そんな苦境においても、子ども達は日々の生活を懸命に生きています。

現在、モンゴルには孤児院が多

数設置されています。孤児院に入れば、衣食住が確保され、学校に通うことができます。

自立の問題

多くの孤児院では子どもは18歳になると卒業しなければなりません。自立できずにいる子どもがたくさんいます。日本と異なり、労働需要の絶対数が少ないモンゴルでは、高卒で働ける機会は非常に限られています。レストランやスーパーで働くにも競争性が必要です。孤児院運営の都合上、行き場がなくても卒業させる所が殆どですが、その結果マンホールでの生活に逆戻りしてしまつて貧困から抜け出せなく

なつたり、女性の場合だと性犯罪に巻き込まれることもあります。また、運よく職につき、家庭ができたとしても、低賃金のため子どもを養えないという人も多いためです。その結果、子どもを孤児院に預けたり、子どもがマンホールでの生活を余儀なくされる場合もあり、貧困のサイクルから抜け出せなくなる事があります。



NGO ゆいまーるハミングバーズ

孤児院を卒業しても、知識や専門性を身につける機会がないために閉ざされがちであるモンゴルの子ども達の可能性。機会さえあれば、子ども達は夢を叶え、職業を持ち、モンゴルの発展に貢献する事が出来るのではないのでしょうか。

NGO ゆいまーるハミングバーズでは、現在、ダルン市にある孤児院「太陽の子どもたち」と協力関係を結び、孤児院卒業生の自立・大学進学を応援しています。孤児院の子ども達が大学で専門性を身につけて就職し、モンゴルの明るい未来に貢献する立派な大人へと成長することが必要だと考えるからです。

ゆいまーるは子どもたちの経済的自立・精神的自立を目指し、主に、奨学金事業・コンサート事業・Design Products の三事業を展開しています。

◆2008 年度活動のハイライト

4 月 19 日 講演「開発途上国の問題とコミュニティビジネス」
 【場所】根津ふれあい会館
 【主催】株式会社エンパブリック
4 月 27 日 開発実務講座にゲスト出演
 【場所】アイ・シー・ネット株式会社研修センター
 【主催】アイ・シー・ネット株式会社
 【内容】アイ・シー・ネット株式会社様が主催した開発実務講座にゆいまーるが題材として起用され、スタッフ 4 人がゲストとして呼ばれました。

6 月 7 日 講演「トーク 2.0 照屋朋子トークショー」
 【場所・主催】世界のダイニング・ピアバー4S+
 【内容】NGO 設立の経緯、ゆいまーるの活動、NPO インベシヨングラント優勝秘話、新事業 Design Products 事業にかける思いなど
6 月 27 日 講演 早稲田大学講演会
 【場所】早稲田大学 14 号館 503 教室
 【主催】『女性・しごと・ライフデザイン』『CCC』
 【内容】自己紹介、パネルディスカッション、質疑応答

9 月 17 日～24 日 写真展『モンゴルの子ども達』
 【場所・主催】from Earth Cafe “OHANA”
 【内容】モンゴルの子ども達の笑顔に溢れた写真展
9 月 24 日 講演 モンゴルナイト
 【場所・主催】from Earth Cafe “OHANA”
 【内容】モンゴル協力隊員高橋さんの報告(15 分) / ゆいまーるの報告(15 分) / モンゴルクイズ / モンゴルビンゴ他

11 月 7 日 太陽のコンサート
 【場所】保谷こもれびホール
 【内容】孤児院『太陽の子ども達』18 名の子ども達による希望と愛に溢れたコンサート
11 月 14 日 講演 早稲田大学オープン教育センター設置科目「ウーマン・キャリアクリエイト講座」
 【場所】早稲田大学 8 号館 B107
 【主催】早稲田大学
 【内容】照屋の学生時代、就職活動、現在の活動、学生さんへのメッセージ



3 月 23 日 講演 ソーシャル・アントレプレナーセミナー
 【場所】横浜メディア・ビジネスセンター6 階横浜ベンチャーポートセミナールーム
 【主催】横浜ベンチャーポート
 【内容】
 1.自己紹介(照屋がモンゴルの子どもたちの支援を始めたきっかけなど)
 2.モンゴルと子どもたちの現状紹介
 3.ゆいまーるの活動紹介
 4.質疑応答&ミニ交流会

5 月 16 日～25 日 写真展『孤児たちの今—アフリカとモンゴルの輝く子ども達—』
 【場所】株式会社イデアインターナショナル 表参道ヒルズ西館地下 2 階にある IdeaFRAMES ギャラリー
 【主催】NGO ゆいまーるのハミングバズ / エイズ孤児支援 NGO・PLAS(共同開催)
 【内容】会員様限定 OPENINGPARTY、写真パネル展示、DVD 上映、グッズ販売、モンゴルミルクティー試飲他
 【内容】にて写真展を開催させて頂きました。

8 月 1 日～31 日 写真展『ふらっと美術館「モンゴルの子ども達」—NGO ゆいまーるからの報告—』
 【場所】横浜市青少年育成協会施設管理部 横浜市青少年交流センター 体験活動推進コーナー
 【主催】横浜市青少年交流センター
 【内容】首都ウランバートルの様子、草原風景、孤児院で暮らす子ども達の日常、マンホールやマンションの配電線室で暮らす子ども達の様子の写真展 / 子ども達を対象としたワークショップ、モンゴルミルクティー試飲など
8 月 21 日 奨学金授与
 【場所】ダルハン市孤児院『太陽の子どもたち』
 【内容】奨学金の受け渡しのために 3 人のスタッフがモンゴルへ渡航。今年度奨学生として選ばれた『太陽の子ども達』の卒業生ルーヤ君(20)とウナルマーさん(19)への奨学金授与式は、孤児院に住む子ども達と先生方全員の前で行われました。



12 月 12 日 講演 東京外国語大学
 【場所】東京外国語大学 府中キャンパス講義棟 1 階 100 教室
 【主催】東京外国語大学
 【内容】モンゴルのマンホールチルドレンと孤児院の状況、NGO 支援活動の難しさ
12 月 13 日 ゆいまーる忘年会
 【場所】モンゴル料理店 大蒙古
 【内容】ゆいまーるの会員様、ボランティアさんへ、日頃の感謝の気持ちをお伝えすると共に、関係各所の方々同士の親睦を深めるため、今年度も忘年会を開催しました。



◆奨学金事業

① 目的

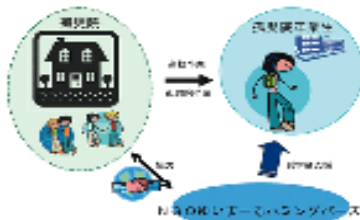
子ども達の真の自立により、貧困のサイクルを解消することを目指します。

② 事業内容

現在のモンゴルでは、孤児院卒業後の就職難から、子ども達が再び貧困に陥る実情があります。そこで、NGOゆいまーるハミングバーズでは、孤児院と協力関係を結び、孤児院卒業生の大学進学を応援します。孤児院で暮らす子どもの中で、大学進学を望み、かつ大学入試に合格する子どもを対象に奨学金の給付を行います。

孤児院で暮らす子ども達に「将来の夢は？」と尋ねると、みんな口々に「医者」「学校の先生」「世界の貧困を救える人」など素敵な夢を話してくれます。大学進学を希望する子ども達が大学で専門性を身につけ就職し、才能を伸ばす機会があれば、モンゴルの明るい未来に貢献する逸材がうまれると考えています。

奨学金イメージ



■支援内容

- ・奨学金内容:学費、寮費、生活費の給付
- ・対象:18歳以上の孤児院卒業生でモンゴル国内の大学に進学するもの
- ・給付期間:卒業までの最短年数(原則4年間)

③ 2008年度事業報告

■08年度奨学生

孤児院「太陽の子ども達」出身のルーヤ君とウンドルマーさんの2名。2008年度は、ゆいまーるにとって記念すべき第1回の奨学金授与が出来ました。当初、奨学金授与は、奨学生と孤児院の先生方、そしてゆいまーるスタッフで行おうと考えていました。しかし、孤児院の所長エルデネ先生に「子ども達全員の前で奨学金を渡してください。そうする事により、ルーヤとウンドルマーの気も引き締まります。また、子ども達にとっても、頑張れば奨学金をもらって大学に進学出来る、ということを知ってほしいのです」とお話を頂き、孤児院に住む子ども達全員と先生方の前で奨学金授与を行いました。



奨学金データ (概算になります)

■ルーヤ君

学費:7.5万円 寮費:2.5万円
生活費:7.0万円 計:17.0万円

■ウンドルマーさん

学費:2.7万円 寮費:1.8万円
生活費:5.0万円 計:9.5万円

■09年度の展望

09年度も、引き続き孤児院「太陽の子ども達」の卒業生を応援します。ルーヤ君、ウンドルマーさんに加えて、4人の子ども達(バイラー君、ザヤーさん、ソフダーさん、バヤルチンゲルさん)が大学進学を望んでいます。うち、1、2名は支援のあてがあるようなので、ゆいまーるでは他から支援が受け入れられない子ども達を支援する予定です。よって、ルーヤ君、ウンドルマーさんを含め、4人~5人の奨学生を支援するこ

◆奨学金事業

とになります。

現在、モンゴルでは物価が急騰しており、学費・寮費が現在よりも上がる可能性があります。また、生活費が08年度と同じ額では到底間に合わないため、物価にあわせた額を支給する予定です。ゆいまーの安定した資金調達が課題となります。

ゆいまー奨学生にインタビュー

ルーヤ君(20) モンゴル国立芸術大学 馬頭琴・長唄専攻



—今大学で勉強しているのは？

馬頭琴と長唄やピアノの演奏、そしてそれらに関わる歴史も学んでいます。

—奨学金を受け取って心境は変わった？

以前は、大学に入る事が目標でした。でも、皆さんのおかげで大学に入り、色々な事を学んで、絶対に夢を叶えたい、と強く思う様になりました。

—その夢とは？

まずは、プロになる事。いずれは、日本やモンゴルの孤児院で芸能を子ども達に教えたいです。

ウンダウマーさん(19) ダルハン技術大学 建設専攻



—今大学で勉強しているのは？

プロのエンジニアになるために、計算や物理学を勉強しています。

—最初から大学に行きたかった？

ここに入ってきたばかりの頃は、毎日をただ過ごせばいい、と思っていました。しかし、先生方の指導や妹・弟が出来たおかげで、モンゴルの将来のため勉強したい、と考える様になりました。

—将来の夢は？

大学院に進み、モンゴルの古いマンホールを修繕して暖房設備を整え、井戸の開発もしたいです。

奨学金授与から約半年経って、再びモンゴルを訪れました。ルーヤ君、ウンダウマーさんは勉強に励んでいるのでしょうか。孤児院所長のエルデネ先生にもお話を伺いました。

ルーヤ君へインタビュー

—授業の頻度と一番好きな授業は？

火曜と水曜は朝8時半から17時までありますが、それ以外は午前中で終わります。

—一番好きな授業はピアノの授業です。寮にもピアノがありますが、古くて音が出ません。

—毎日どのように過ごしていますか？

いつも、学校か、寮か、図書館にいます。寮で長唄の練習をしています。寮では様々な音が聞こえてきます。消灯は23時ですが、みんな2時まで練習しています。

ウンダウマーさんへのインタビュー

—一番好きな授業は？

熱力学の授業が一番好きです。最近では、哲学の試験がありました。モンゴルの全大学で哲学は必修科目なんです。5月20日～6月上旬までテストがあるので試験勉強に励んでいます。

—休日にはどのように過ごしていますか？

図書館にいたり、音楽を聴いたりしています。バスケットも得意です。先日のバスケットボール大会では、銀メダルを取りました。

エルデネ先生へのインタビュー

—何か困っている事はありますか？

日本経済が大変なら、モンゴルはもっと大変な状況です。奨学金を受けている子は無駄遣いをしませんので、与えられた範囲内でやりくりしています。ただ、授業で使用する物や服を買うお金は不足しています。

—奨学生にどのような話をしていますか？

成績が悪ければ次年度の奨学金の相談をしないよと言っています。そうするとよく頑張りますからね。

◆コンサート事業

① 目的

子ども達の精神的自立を目的として、来日コンサート事業を行っています。

コンサート開催の目的は大きく以下の2つに分けられます。

・子ども達が日々の練習で培ってきたものを公演の場を設け発表することで、自信と新たな希望を持てる機会を与え、精神的自立を目指します。

・コンサートを通じてモンゴルの現状、孤児となった子ども達についてより多くの方に知って頂くことで、NGO ゆいまーるハミングバースの活動への理解および支援を広げます。



② 事業内容

ゆいまーるが支援をする孤児院「太陽の子ども達」では、子ども達が生活をする施設の隣に音楽学校が併設されています。この音楽学校ではプロの講師を雇い、子ども達は馬頭琴などのモンゴルの民族楽器、民族舞踊、歌、軟体芸など多岐に渡る芸術を学んでいます。そこで、ゆいまーるは外務省やスポンサー企業様のご支援の下、子ども達、先生方を日本に招いて来日コンサートの企画・運営を行っています。幼い頃より想像を絶するような過酷な生活を強いられ、辛い想いを抱えている子ども達ですが、自分の得意分野でのチャレンジが自信に変わり、精神面での充実にも繋がります。また、コンサートを通して子ども達について多くの方々に知っていただくことで、彼らの未来をより希望に満ちた明るいものとしていきたいと考えています。

コンサートの運営においては、通常の組織とは別にコンサート実行委員会を設け、コンサート開催に向けての諸準備を行います。当日は、その実行委員会を中心に、スタッフ・ボランティアスタッフで会場の運営・グッズの販売を行います。

コンサートでは多くのスタッフ、地域の方々、ホストファミリー、会場のお客様が関わって子ども達と一緒にひとつのステージを創り上げることを目指します。

③ 2008年度の事業報告

08年度は11月に孤児院「太陽の子ども達」より18名の子ども達と5名の先生方を招いて来日コンサートを開催しました。ゆいまーるでは、実行委員会を立ち上げ、会場の決定、協賛企業様の獲得、広報物の作成、スケジュール調整、当日の会場運営等を行いました。

お客様からも「レベルの高い素晴らしいコンサートだった」「もっと子ども達の演技を見たかった」と、多くの好評をいただきました。

◆コンサート事業

■事業概要

- ・日時 2008年11月7日(金)19:00～21:00
- ・場所 西東京保谷こもれびホール
- ・内容 太陽のコンサート(2部構成)
 - 第1部ー講演 19:00～19:25 (代表 照屋朋子)
 - 第2部ーコンサート 19:40～21:00 (太陽の子ども達)
- ・集客人数 200名(満席)
- ・スタッフ人数 39名(うち28名はボランティアスタッフ)



■後援・協賛

・後援

外務省

・協賛

株式会社アイデアインターナショナル

・協力

大倉浩法律事務所	弁護士 大倉浩
株式会社 風の旅行社	
埼玉県倫理法人会	相談役 金子袈裟巳
有限会社 秀和メンテナンス	代表取締役 高本秀俊
吉野会計事務所	税理士 吉野康幸



12年前、小学3年生だった私は一人のモンゴル人女性と出会い、モンゴルに魅せられました。その後、自分の大好きな国に「マンホールチルドレン」の存在があると知りショックを受け、「どうにかしたい、しなければ」と思うようになりました。大学で念願のモンゴル留学を果たし、帰国後ゆいまーるに加入しました。

子ども達が持つパワーを一人でも多くの人に届けたいという想いで、コンサートの実行委員として運営を行っています。08年度のコンサート運営は、経験・ノウハウも無いなかで必死にもがきながら行いましたが、実際に子ども達がやってきてステージの上に立つ姿、そして涙を溜めながらコンサートに聴き入っている来場者の方の姿を見た瞬間、苦労が全て喜びと感動に変わったのを覚えています。



NGO ゆいまーるハミングバース企画部 鹿野詩織

◆Design Products 事業

① 目的

孤児院が持っている工房の生産品によって、将来的に孤児院自身の力で奨学金を創出できるようになり、自立化を図っていくことが目的です。

② 事業内容

■ 孤児院の工房の製品製作支援

まず、孤児院の工房の技術力を強化します。専門家の先生を積極的に雇い、良質な素材を仕入れることで、製品の質に本格的な価値を付加できるようにします。

製品デザインに関しても、日本国内のニーズを考慮したデザインを、プロの協力も交えて提供します。

その上で、日本国内での販売網をゆいまーが開拓、提供することで、製品の収益がコンスタントにあげられ、なおかつ段階的に生産量と収益を伸ばしていき、最終的には奨学金を孤児院自らの手によって産み出せる状態を目指します。

■ グッズ販売・販促

ゆいまー関連のグッズ販売、孤児院製作のグッズ販売から得られる収益を奨学金にあてています。

③ 2008 年度事業報告

2008 年度 8 月に株式会社アイデア・インターナショナル様とのコラボレーション商品、ゆいまーのロゴ入り「エコポケ・マイハシ」が完成し、販売を開始しました。また、奨学金受け渡しモンゴル渡航(18 日～25 日)にて、『太陽の子どもたち』の手芸工房を視察し、2009 年用カレンダーの絵を子どもたちに描いてもらいました。

9 月にはモンゴルナイト(Café OHANA 三軒茶屋)にてマイハシを販売しました。

10 月からは 2009 年用カレンダー製作を行いました。

11 月に秋田モンゴル親善協会により、秋田県内の国際バザールにて、ゆいまーグッズの販売を行って頂きました。また、太陽のコンサートにて、カレンダー、マイハシ他グッズ販売を行いました。

2009 年 1 月には、ホームページのグッズ紹介ページをリニューアルしました。

09 年度はグッズ販売が主だった仕事になりましたが、来年度は本格的に孤児院の工房と一緒に動いていこうと計画を立てています。



エコポケ・マイハシ

私は、大学でモンゴル語、大学院ではモンゴルの児童文学を専攻しました。モンゴル留学中、マンホールチルドレンや路上で生計をたてている幼い子どもたちを見かけることが多く、その姿から目を反らすことはできませんでした。そして、モンゴルで苦しい環境下におかれた子どもたちに関わるのが、どうしてもしたいと思いました。物語や詩が大好きな子どもたちに、研究とは別の手助けがしたいと、ゆいまーの活動に参加しました。今では子どもたちからもらう手紙や、一緒に撮った写真が何よりの私の励みです。

「ものづくり」には夢があります。女の子たちも作っていて楽しくなるような、手にとった人にも幸せのおすそ分けができるような、そんな可愛いものを作っていこうと考えています。



NGOゆいまーのハミングバーズ Design Products 事業部 梅野 愛子

◆ 広報事業

① 目的

モンゴルの現状・ゆいまーの活動をより多くの方に知ってもらうために、モンゴルやゆいまーの事業内容について広く紹介していきます。

② 事業内容

広報部では主に、会員様向けの会報誌発行、ホームページの製作・管理、パンフレット発行・年次報告書の作成を主導して行っています。

③ 2008 年度事業報告

■ WEB

08 年 8 月からホームページリニューアル計画をスタートさせ、スタッフ内でミーティングを重ねながら、9 月下旬にリニューアルを完了させることができました。初めて訪れた人にもすぐに「どこに何の情報があるか」をわかりやすくし、スタッフが誰でも簡単に更新できるようにしたことにより、ゆいまーを応援してくれる方々に、ホームページからゆいまーの最新情報を頻繁にお届けできるようになりました。来年度は、活用方法につき、新たな挑戦をしていく予定です。

■ 会報

広報部では、正会員様向けに、ゆいまーの日々の活動を報告するために 1 年に 3 回会報を発行しています。08 年度には、7 月、10 月、09 年 2 月に発行しました。各イベントの報告や、スタッフの紹介などの他にモンゴルや孤児支援にゆかりのある方への取材も行いました。会報は、ゆいまーの活動を報告させて頂く役割をしっかりと果たしていくためにも、今後も内容の充実を図っていきたいと考えています。

■ パンフレット

協賛企業様のご協力により、2009 年度版のパンフレットを無事作成・発行することができました。今回はできるだけ多くの方にゆいまーという団体を知って頂こうと冊子パンフレット 5000 部の他にリーフレットタイプの簡易パンフレット 5000 部も発行しました。ゆいまーの奨学金事業や Design Products 事業などの事業内容や組織について紹介したパンフレットを「太陽のコンサート」や講演会等で配布しました。

・協賛

株式会社アイデア・インターナショナル
本格モンゴル料理 大蒙古
モンゴルレストラン チンギス・ハーン

・デザイン協力

美術家 住中 浩史
・日本語校正協力
高柳 亜美

以前から児童の人権保護について興味を抱いていた私は、大学在学中に、来日していた太陽の子ども達のコンサートを見に行き、衝撃を受けました。壮絶な環境の中でも懸命に未来を信じ、生きてきた太陽の子ども達の姿に熱く胸を撃たれ、私でも何か力になれることがあればという思いから、ゆいまーの活動に参加しました。奨学金の給付が子どもたち、そしてモンゴル社会全体の未来をも明るくしていけると信じています。

NGO ゆいまーのハミングバーズ広報部 大城 安衣



◆ガバナンス

①資金調達

■会費・寄付

08年度は正会員31人、賛助会員12人のご支援を受けました。暖かいご支援のおかげで奨学金を授与することができました。支援の透明化を図るために、今後も情報公開に努めていきたいと考えています。

■NPO イノベーショングラント

08年3月に東京都で開催されたNGO、NPOのコンペティション「NPO イノベーショングラント」で優勝し、賞金100万円と、株式会社IDEAinternational様、スリープログループ株式会社様、株式会社ピースマインド様のご支援を頂きました。

株式会社IDEAinternational様には、表参道ヒルズIdeaFRAMES内ギャラリーを10日間お借りした他、コンサートの特別協賛、パンフレットの広告協力、エコハシのコラボレーション、Design Products事業へのアドバイス、会議室の貸し出し等多大なご協力を頂きました。

スリープログループ株式会社様には、スタッフの会議や、コンサートボランティア募集説明会、勉強会などのために、オフィスの会議室を貸して頂きました。

株式会社ピースマインド様には、組織運営やプレスリリースに関するアドバイスを頂きました。

■企業との連携・助成金

コンサートの際に、吉野会計事務所様他5社から協力を得ました。また、株式会社ラッシュジャパン様より助成金を頂きました。08年度公式パンフレット作成の際は、約40の企業に広告掲載を依頼し、モンゴル料理店チングスハン様他2社の協力を得ました。今後は積極的に連携に取り組むことが課題となります。

■コンサート

08年度最大イベントであったコンサート収入は481,714円でした。計画の甘さから十分な準備期間が確保できず、効率が悪かったので、来年度は改善していきたいと考えています。

②組織運営

■組織体制

08年度は12名のスタッフで運営を行いました。代表以外のスタッフは、総務部、広報部、Design Products事業部、企画部のいずれかに所属し、各部にリーダーを配置した結果、業務内容・責任の所在が明確化しました。しかし、セクショナリズムによりスタッフ間の協力体制が弱まってしまいました。

■人材確保

08年度からボランティア制度を強化しました。5月の表参道ヒルズIdeaFRAMES内で行った写真展では11名、11月のコンサートでは20名強のボランティアの方の助力を得ることができました。

■組織基盤の整備

現在、ゆいまーでは単独の事務所を持っておらず、情報の一元化、資源の一元化が図れていない状態です。一刻も早く、事務所を構え、電話を繋ぎ、組織基盤を整備したいと考えます。

■会計制度の整備

07年度の収入は50万円弱であったのに対し、08年度の収入は350万円を超えました。今後本格的な会計制度整備が必要となります。09年度からは会計ソフトの導入、専門家の方に監査をして頂きます。

◆ 会計報告

2008 年度収支報告

単位：円

■ 収入の部

会員事業(正会員)	491,000
(賛助会員)	118,000
Design Products 事業	321,108
コンサート事業	481,714
賞金(イノベーション・グラント)	1,000,000
助成金	1,000,000
講演料	20,618
寄付	237,651
広告料	70,000
口座利息	140
小計	3,740,231

■ 支出の部

奨学金事業	260,000
会員事業	40,365
Design Products 事業	256,824
コンサート事業	423,014
国内事業	55,854
現地活動	170,000
パンフレット作成	158,324
団体運営	9,653
小計	1,374,034

収支 ¥2,366,197
(前年度繰越金)+ ¥ 251,186
総資金有高 ¥2,617,383

◆ 08 年度ゆいまーるスタッフ

代表：照屋 朋子

総務部：上原 佐和子

総務部：中釜 真里子

広報部：大城 安衣

広報部：高橋 直人

広報部：鶴見 譲

Design Products 事業部：梅野 愛子

Design Products 事業部：古里 麻衣

企画部：鹿野 詩織

企画部：柴原 和可

企画部：惣田 頼正

企画部：鶴田 健

※柴原 和可、鶴田健、鶴見譲、中釜真理子の 4 名は 08 年度を持ちましてスタッフを引退しました。今後は、OBOG としてゆいまーるを支えてくれます。多大なご声援ご協力ありがとうございました。

